



■ データの爆発とオクトパスの進化

今月のかわら版はコンピュータの話題にしたいと思います。

2,353,400、2,025,053、1,185,249

これらの数字は何？といいますが、お客様にご利用いただいている Share(しえあ)の「監査ログの件数の上位3件」です。

「シェアは廉価なファイルサーバらしくない機能」をいくつか持っていますが、その際たる機能が「監査ログ」です。監査ログとは、ファイルを開いた・変更したといった記録のことで、情報漏洩対策に利用されます。このような利用記録は莫大な件数になるのですが、上の3つの数字はそれを表しています。

100万件のオーダー(桁)のデータというのは、**大手企業の基幹システム並みのデータ量**です。それを(情報漏洩といった万が一のときに)検索できるように保存しておくのは、弊社のような小さい会社にとって大きな技術的チャレンジです。

下の図は、2020年2月時点での弊社統合システム管理ツール「オクトパス」のアーキテクチャを示しています。図中、「まるP」と書かれている囲みは**プログラミング言語**、円柱が書かれているのは**データベース**です。そして、青い枠で囲んだ部分が、**データ爆発のために新しく追加したプログラミング言語とデータベース**です。

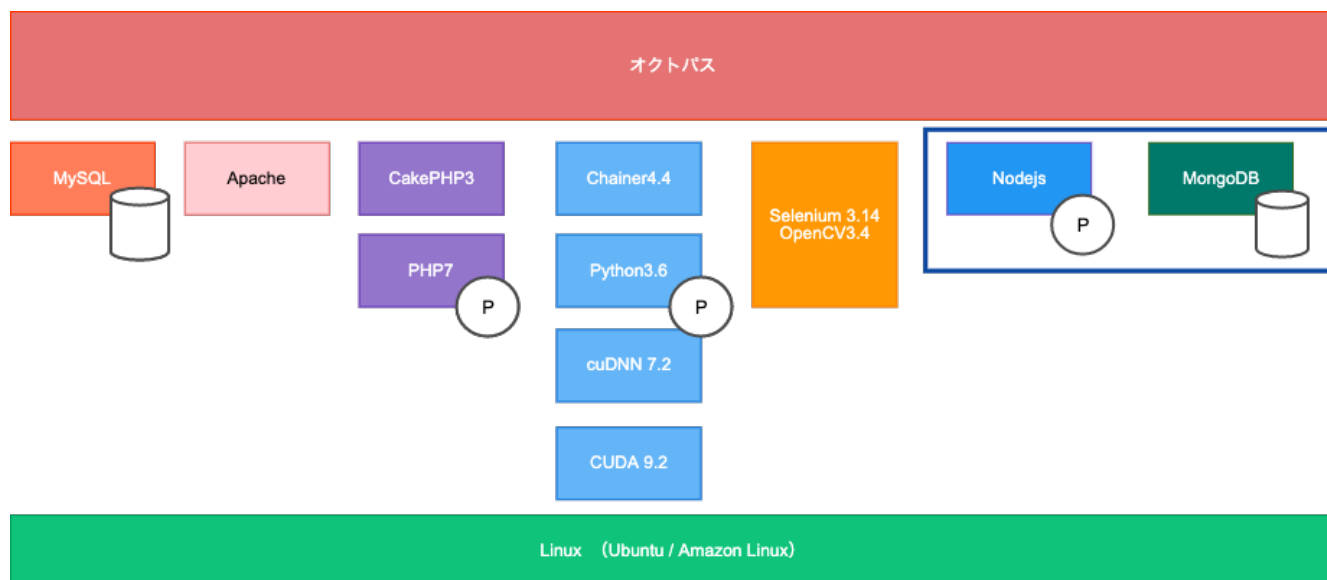


図:オクトパスのアーキテクチャ(2020/2 時点)

新しく追加した **MongoDB(モンゴ DB)** は最近非常に注目を集めているデータベースです。これまでのデータベース(リレーショナルデータベース)とは根本的に違い、「文書(ドキュメント)」を保管することに最適化されています。

新しいプログラミング言語の **Nodejs(ノードjs)** の「js」とは javascript のことです。Javascript というホームページで広く使われていますが、Nodejs は javascript をサーバーで実行する本格的な言語環境です。全世界的にデータは爆発的に増えていて、それをうまく保管・操作するためにこれらの技術がうまれました。オクトパスも日々進化させることで「よりよいサービス」につなげていこうと考えています。